



東都大学図書館通信

(沼津キャンパス第4号)

東都大学沼津キャンパスも、早いもので、今年で開学3年目を迎えました。学生数も増え、図書館も活気づいています。沼津キャンパス図書館にもささやかではありますが、様々な変化がありました。図書館の開館時間が夜7時までとなりました。そして開架閲覧室には、念願のエアコンも設置されました！昨年は学生の皆さんに少々大変な思いをさせてしまいました。今年は多いに快適になった図書館を有効活用して下さいね。それでは沼津キャンパス図書館通信第4号、鱗雲と富士山と金木犀が香る美しいこの季節に久々の開幕です。是非お楽しみください。今回は表紙を和風にしてみました。でも中身はポップですよ！！

第4号 CONTENTS

- ★司書のこの1冊…『幸せな仕事』
- ★教員のオススメ本…公衆衛生看護学領域 小川将太先生
- ★特集：沼津キャンパスの3階にお宝絵画が！？
- ★蔵書点検のお知らせ
- ★夜間開館が始まりました！
- ★新刊コーナーますます拡大中！
- ★あとがき



～司書が選ぶこの1冊～

『幸せな仕事 - 命を支える人たちへ 医療・看護・介護 100のメッセージ』 鎌田 實

小さい本ですが、深いメッセージが込められています。著者の鎌田さんの最後のむすびの言葉では、 Chernobyl 原発事故の放射能汚染地で、白血病の少年が「パイナップルを食べたい」と言った息子のため、雪の町を、パイナップルを求め必死に探し歩いてくれた日本の看護師が現場にいた事に対して「日本の若い看護師に感謝する」とその少年の母親が言ってくれたという話が綴られています。その少年は亡くなっていますが、その温かい話は医療・看護・介護に連鎖し広がっていくというものです。大切な息子さんを助けてあげることができなかったにもかかわらず、その母親から感謝していただいた事に、とても「ありがたい仕事だ」と感じたようです。

図書館に来る学生に「何故、看護師になろうと決めたのか」と聞くことがあります。学生の皆さんには「患者さんが元気に回復して、退院していく姿をこの目で見たい」「自分が子供の頃に入院した病院で一晩中ずっと付き添ってくれた優しい看護師さんがいた。その人とまた再会して同じ病院で一緒に仕事がしたい。」等、皆それぞれ希望を持って入学してきたようです。近い将来、皆さんも社会に出来ます。きっと理想通りにはいかない時もあると思います。むしろその方が多いかもしれません。そのような時でも、この道を志した時の気持ちを忘れずにいて欲しいと思います。そして、大学に通える事へのありがたさ、自分が志した道で働く事へのありがたさを実感して欲しいと思います。いずれ社会で活躍する皆さんことを「ありがたい」と感じてくれる方々が必ず現れる日が来るよう、また皆さんのが自分の仕事を「ありがたい仕事」と感じてくれる方々が必ず現れる日が来るよう、また皆さんのが自分の仕事を「ありがたい仕事」と感じてくれる日が来るようになります。この本をパッとランダムに開き、そこに開かれたページに今の自分のメッセージが込められていると思い、私は何かあるとコツリ開いています。そのページには、その時の自分に必要な言葉が綴られていて、ハッさせられます。この『幸せな仕事』は看護師だけではなく、全ての働く人々へのメッセージになると思っています。学生の皆さんも図書館でコツリ開いてみて下さい。そこにあなただけの答えがみつかるかもしれません。



この本は沼津キャンパスに所蔵があります。請求番号498・04/K



教員のオススメ本



「有人宇宙学－宇宙移住のための3つのコアコンセプト」

公衆衛生看護学領域 講師 小川将太

紹介する書籍のタイトルにある「有人宇宙学」は、人類が宇宙で有人活動するための新しい学問です。本書は、合計4部で構成されています。第一部の序論から始まり、次に3部構成で、地球外にある惑星で生活するという宇宙移住を想定した際に必要と考えられる地球生態系システム、技術、社会システムという3つの要素を解説されています。

第一部の序論では、宇宙移住に必要な考え方、有人宇宙学、宇宙移住に必要な条件が説明されています。第二部では、地球生態系システムが扱われており、地球上に存在する海洋、森林、空気、水、生態系を宇宙に移したり、創造したりすることが検証されています。第三部では、人工重力、宇宙における循環システムの構築、資源・エネルギー利用、宇宙食といった技術に関しての取り組みや課題などを知ることができます。第四部では、宇宙法、宇宙医療、宇宙観光というテーマで構成され、宇宙で生活することを想定した社会システムについて学ぶことができます。本書は、宇宙移住に携わる精鋭された専門家だけでなく、日本人宇宙飛行士の土井隆雄氏、山崎直子氏も執筆に関わっています。一方で、学生が実習体験した閉鎖環境下の報告、研究員が体験した無重力実験の体験報告等のトピックが章と章との間に掲載されています。

ここからは個人の感想になります。この図書館通信を読んでいる皆さん、興味を持つテーマは、本書で扱われているテーマの中の1つの「宇宙医学」ではないかと思われます。ここでは、宇宙空間の微重力環境、大気に覆われていないことによる宇宙放射線に曝される宇宙環境下による人体への影響と対策などについて理解することができます。宇宙に移住して生活する未来が訪れた時、皆さんの友人や職場の同僚から宇宙を舞台に生活して働くことが期待できます。10年後、20年後に本書を読み直して、どこまで宇宙移住が実現されているのか、振り返ってみても良いと思います。私は、本書を読み、日常生活では触れることのできない新たな知見が得られました。そして、地球上で生活することを見直すことができ、とても新鮮でした。ぜひとも皆さんご一読してみてください。

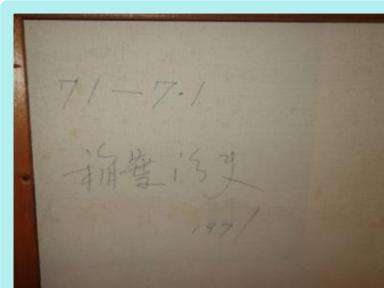
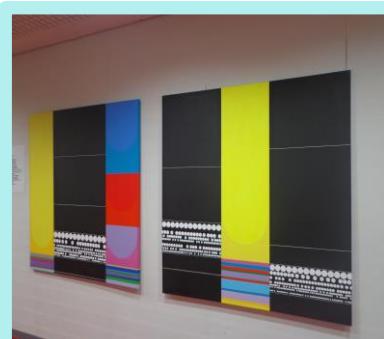


『有人宇宙学－宇宙移住のための3つのコンセプト』
山敷庸亮/編
京都大学学術出版会

特集：東都大学沼津キャンパス3階にお宝絵画が！？

～ホテル沼津キャッスルについて～その③

第3号では、ホテル沼津キャッスルで大切に保管されている、天皇皇后両陛下（現上皇ご夫妻）が静岡県を訪問された際、昼食のためホテル沼津キャッスルに立ち寄られた時に使用された、食器や茶器などについて紹介しましたが、今回は3階に現存する、大変美しい絵画をご紹介します。この絵画、とにかくカラフルで目を引きます。まっすぐに伸びるラインは何故こんなにも直線に描けるのかと見入ってしまいます。更にこのライン、実は正面の絵画上で完結されず、絵画の側面にまで伸びています。また絵画の裏には直筆のサインも入っています。この作品を描かれたのは、沼津市出身の画家 稲葉治夫さん（1931-2010）です。稲葉さんは東京藝大卒業後、新表現主義を結成。その後は東京造形大学で教鞭をとる傍ら、沼津市庁舎壁画作成や稲葉さんの母校である、沼津市立高等学校・メディアセンター壁画作成など、精力的に活動をされてきました。東京造形大学退職後は、故郷の沼津に戻り、美大を目指す学生の指導や子どもたちに、絵を描く事の楽しさを教える等の活動をされていたようです。これらの作品は1970～1979年くらいに描かれた作品で、50年以上も前の作品である事が絵画の裏のサインからわかりました。稲葉治夫さんの絵画は沼津キャンパスの3階図書館とラウンジAに大切に飾ってあります。この明るく生き生きとしたカラフルな4枚の絵画を学内で見るたびに元気が沸いてきて、「今日も頑張ろう！」と思える不思議な力を持った大変貴重なお宝絵画なのです。



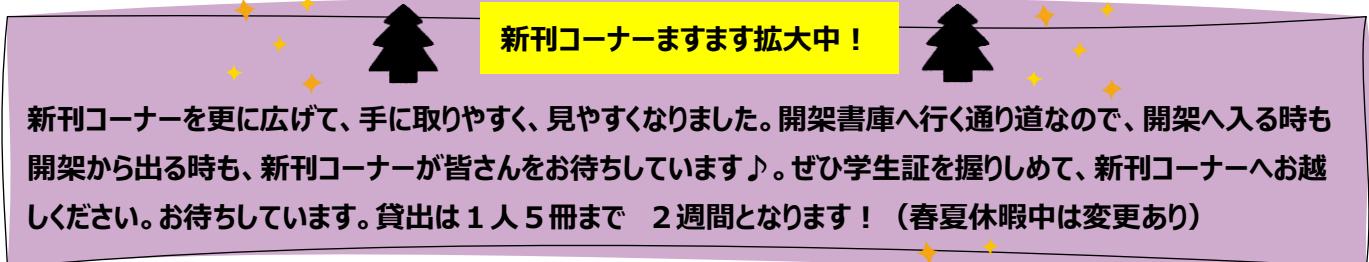
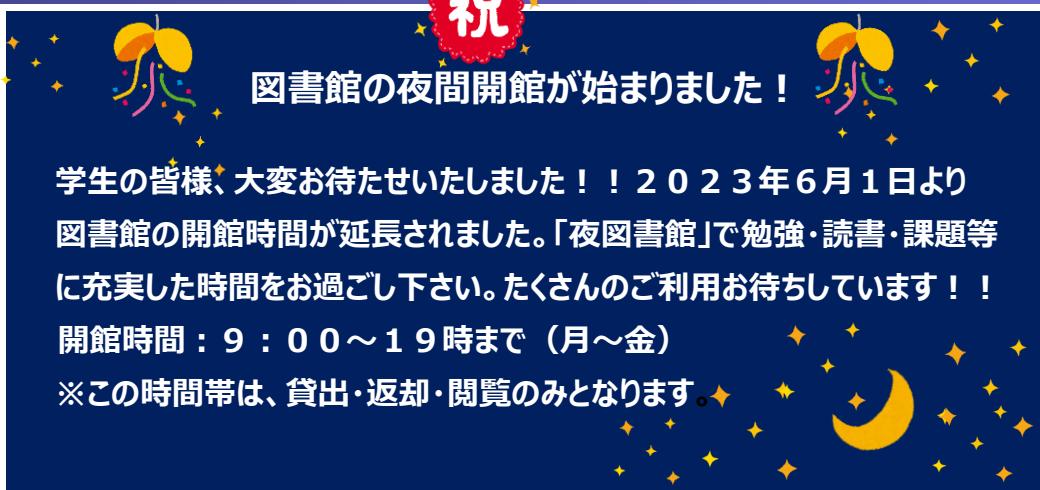
絵画の側面まで伸びるまっすぐ線と丸

絵画の裏の直筆サイン



蔵書点検のお知らせ

2024年3月18日(月)～3月25日(月)まで図書館では、蔵書点検を行います。この期間中、図書館は終日閉館となります。蔵書点検とは、図書館で所蔵している資料が正しい場所に収まっているか、行方不明の資料がないか、また破損や汚損している資料がないかを点検する作業のことです。カウンター業務から離れ、決められた期間内で集中的に作業をします。図書館の資料を正しく迅速に提供していくために必要な作業です。よろしくお願いします。



～あとがき～

第4号いかがだったでしょうか？早いもので今年もあと残りわずかで新年を迎えます。来年度はいよいよ第1期生が4年生となり、国家試験対策等、忙しくなってくるでしょう。来年は辰年です。辰年は活力旺盛になって大きく成長し、形が整う年と言われています。沼津キャンパスの皆さん、辰のごとく上昇し、健康で、日々元気に新しい年を迎えるように祈っています。皆さん、良いお年をお迎え下さい。



【第4号】2023年11月27日発行

【発行者】東都大学沼津キャンパス図書館運営委員会

【編集協力】松田正己 小山田路子 玉城紫乃

【編集】沼津分館司書 中山祐子

